

第1回 あま市小中学校あり方検討委員会 会議録（大要）

開催日時	令和4年2月2日（水）午前9時30分～午前11時30分
開催場所	美和公民館 3階 研修室
出席委員	<p>1 委員長 山田 貞二（岐阜聖徳学園大学准教授）</p> <p>2 副委員長 小林 優太（愛知教育大学非常勤講師）</p> <p>3 委員 溝口 紘（有識者）</p> <p>4 委員 加藤 万佐子（あま市立宝小学校校長）</p> <p>5 委員 安江 利成（あま市立甚目寺南中学校校長）</p> <p>6 委員 岩井 小百合（あま市保育園保育士長）</p> <p>7 委員 林 弘樹（宝学園（中川幼稚園）理事長）</p> <p>8 委員 佐藤 明美（保護者）</p> <p>9 委員 古川 式規（財政課長）</p> <p>10 委員 早川 敬成（企画政策課長）</p> <p>11 委員 恒川 和宏（子育て支援課長）</p>
欠席委員	なし
事務局	<p>1 松永教育長</p> <p>2 吉川教育部長</p> <p>3 日比野教育次長</p> <p>4 内山学校教育課長</p> <p>5 鎌倉生涯学習課長</p> <p>6 神戸スポーツ課長</p> <p>7 水野指導主事主幹</p> <p>8 書記野々目課長補佐</p> <p>欠席 平野学校給食センター課長</p>
傍聴人	0人
議事日程	<p>(1) 委員長及び副委員長の選任について</p> <p>(2) あり方検討委員会の趣旨及び目的について</p> <p>(3) あま市立小中学校の現状と予測について</p> <p>(4) 意見を聴取するテーマの全体概略説明について</p> <p>(5) 意見を聴取するテーマの追加の有無の照会について</p> <p>(6) 質問・ご意見聴取</p> <p>その他 アンケート調査について</p>

発言者	議事の概要																																				
<p>学校教育課長</p>	<p style="text-align: right;">【開会時刻 午前9時30分】</p> <p>定刻となりました。</p> <p>本日はお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。それでは、ただいまより第1回あま市小中学校あり方検討委員会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>最初に、事前に配布させていただいた本日の資料の確認をお願いします。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 次第</td> <td>A 4</td> <td>1 枚</td> </tr> <tr> <td>2 委員名簿</td> <td>A 4</td> <td>1 枚</td> </tr> <tr> <td>3 委員会要綱</td> <td>A 4</td> <td>1 枚</td> </tr> <tr> <td>4 委員会の趣旨及び目的</td> <td>A 4</td> <td>1 部 (A4 3枚)</td> </tr> <tr> <td>5 あま市小中学校の現状と予測</td> <td>A 4</td> <td>1 部</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(A4 3枚 A3 1枚 A4 1枚)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 小中学校のあり方1</td> <td>A 3</td> <td>1 枚</td> </tr> <tr> <td>7 小中学校のあり方2</td> <td>A 3</td> <td>1 枚</td> </tr> <tr> <td>8 小中学校のあり方3</td> <td>A 3</td> <td>1 部 (A3 3枚)</td> </tr> <tr> <td>9 小中学校のあり方4</td> <td>A 3</td> <td>1 部 (A3 4枚)</td> </tr> <tr> <td>10 小中学校のあり方5</td> <td>A 3</td> <td>1 枚</td> </tr> <tr> <td>11 小中学校のあり方6</td> <td>A 3</td> <td>1 部 (A3 2枚)</td> </tr> </table> <p>以上です。</p> <p>続けて、委員の皆さまのご紹介をさせていただきますが、配布させていただいた委員名簿をもって、ご紹介に代えさせていただきます。</p> <p>それでは、最初に教育委員会を代表しまして、教育長よりご挨拶を申し上げます。</p>	1 次第	A 4	1 枚	2 委員名簿	A 4	1 枚	3 委員会要綱	A 4	1 枚	4 委員会の趣旨及び目的	A 4	1 部 (A4 3枚)	5 あま市小中学校の現状と予測	A 4	1 部		(A4 3枚 A3 1枚 A4 1枚)		6 小中学校のあり方1	A 3	1 枚	7 小中学校のあり方2	A 3	1 枚	8 小中学校のあり方3	A 3	1 部 (A3 3枚)	9 小中学校のあり方4	A 3	1 部 (A3 4枚)	10 小中学校のあり方5	A 3	1 枚	11 小中学校のあり方6	A 3	1 部 (A3 2枚)
1 次第	A 4	1 枚																																			
2 委員名簿	A 4	1 枚																																			
3 委員会要綱	A 4	1 枚																																			
4 委員会の趣旨及び目的	A 4	1 部 (A4 3枚)																																			
5 あま市小中学校の現状と予測	A 4	1 部																																			
	(A4 3枚 A3 1枚 A4 1枚)																																				
6 小中学校のあり方1	A 3	1 枚																																			
7 小中学校のあり方2	A 3	1 枚																																			
8 小中学校のあり方3	A 3	1 部 (A3 3枚)																																			
9 小中学校のあり方4	A 3	1 部 (A3 4枚)																																			
10 小中学校のあり方5	A 3	1 枚																																			
11 小中学校のあり方6	A 3	1 部 (A3 2枚)																																			
<p>教育長</p>	<p>(挨拶とお礼)</p> <p>(コロナ禍、感染症予防の話)</p> <p>(委員会について)</p> <p>あま市が誕生して10年の節目を過ぎ、新たな10年の指針ともいうべき、総合計画の改訂が市では進められています。それに伴い、あま市の教育振興計画である教育立市プランの改訂も行っています。また、新たに生涯学習推進計画及びスポーツ推進計画についても、策定に向けて進めている所です。そのなか、当委員会は、様々な課題がある小中学校について、今後のあま市小中学校のあり方の方向性について、ご意見を頂こうというものです。</p> <p>国等の指導により、公共施設の再配置計画や学校施設の長寿命化計画が策定されていますが、その各計画を具現化していかなくてはなりません。</p> <p>委員の皆様には事務局が選んだ小中学校の課題のうちの6つについて資料をお送りしております。この課題について、今年度の残りと、来年度に</p>																																				

	<p>かけて、もしその期間で難しいようであれば再来年度にかけて、ご意見を頂いて方向性を見いだせればと思います。</p> <p>今後10年を見据えたときに、あま市の小中学校をどのような方向にしていくのか、していく必要があるのかということについてご意見をいただくため、この度、様々な方面の方々に委員をお願いしました。学識経験者であったり、学校の代表であったり、あま市の幼稚園、保育園の代表の方、また、予算を伴うことでもありますので、市の財政課、市の総合計画や公共施設再配置計画などをまとめてくれている企画政策課、幼保及び児童生徒が様々にかかわってくる子育て支援課にも参画いただいて、関係部局を含めて、今後の小中学校のあり方について議論を深めていただければと考えています。</p> <p>本日は、ご意見をいただく課題について担当からご説明をさせていただきます。その上で、今後皆様から忌憚のないご意見を遠慮なくおっしゃっていただいて、報告書として最終的にまとめていただくようお願いします。</p> <p>皆様方のそれぞれの立場からご意見を頂いて、あま市がよりよい教育施策を進めて行けるようにしたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。</p>
学校教育課長	本委員会の議事録の概要を市ホームページで公開するため、委員会の内容を録音させていただきますので、ご承知おきください。
学校教育課長	<p>それでは、「議題（1）委員長及び副委員長の選任について」に入ります。</p> <p>なお、議題（1）で委員長及び副委員長が選任されるまでは、私が進行をつとめさせていただきます。</p> <p>まず、委員長の選任についてです。</p> <p>委員長には、本委員会の議長として会議を進行していただくほか、最終的な報告書も委員長名で教育委員会に提出していただくこととなります。</p> <p>また、委員長選任後の第2回以降は、会議の招集も委員長名で行わせていただきます。</p>
	(岐阜聖徳学園大学准教授山田貞二委員を推す声あり)
学校教育課長	<p>岐阜聖徳学園大学准教授山田貞二先生の推薦がありましたが、皆様ご異議ございませんでしょうか。</p> <p>山田先生よろしいでしょうか。</p>
委員全員	異議なし
山田委員	はい、よろしくをお願いします。
学校教育課長	<p>それでは、本委員会の委員長を山田貞二様につとめていただくこととします。よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、副委員長の選任についてです。</p> <p>副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときに、その職務を代理するものです。</p>
	(愛知教育大学非常勤講師小林優太委員を推す声あり)
学校教育課長	愛知教育大学非常勤講師で、あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会委員でもある小林優太様の推薦がありましたが、皆様ご異議ございませんでしょうか。

	小林さんよろしいでしょうか。
委員全員	異議なし
小林委員	はい、よろしくお願いします。
学校教育課長	それでは、本委員会の副委員長を小林優太様につとめていただくこととします。よろしくお願いいたします。
学校教育課長	議題（１）が終了しましたので、議事進行を委員長にお願いします。
山田委員長	岐阜聖徳学園大学の山田です。よろしくお願いします。 今日は、しっかり説明を受けてから意見を言うということで、膨大な資料が用意されています。忌憚なく質問や意見をおっしゃっていただければと思います。 それでは、「議題（２）あり方検討委員会の趣旨及び目的について」に入ります。事務局説明をお願いします。
学校教育課長	あり方検討委員会の趣旨及び目的についてご説明いたします。 資料のうち、「あま市小中学校あり方検討委員会の趣旨及び目的」をご覧ください。 (趣旨及び目的について) 本委員会は、教育委員会があま市立小中学校の将来を見据えた学校のあり方に係る基本的方針及び方策を策定するにあたり、有識者、学校関係者、市民等から広く意見を頂くことを目的としています。 委員の皆様のそれぞれのお立場からご意見をいただき、大まかな方向性が見いだせればと思っています。 (会議予定と報告書について) 本委員会は、現在のところ、令和３年度中に２回、令和４年度中に４回開催することを予定しており、最終的に報告書を委員長名で教育委員会に提出していただきます。 あま市では、あま市公共施設等総合管理計画、あま市公共施設再配置計画及びあま市学校施設長寿命化計画等の計画が既に決定しています。新たな教育委員会が策定する基本的な方針は、これらの計画と整合性を考慮したものとする予定ですので、報告書についても他計画との整合性について意識していただくことをお願いします。 趣旨及び目的については以上です。
山田委員長	質問等は、後でまとめていただくこととして、「議題（３）あま市立小中学校の現状と予測について」に入ります。事務局説明をお願いします。
学校教育課長	あま市立小中学校の現状と予測についてご説明いたします。 資料のうち、「あま市小中学の現状と予測」をご覧ください。 説明は、担当から致します。
書記	ご説明します。 (市内施設について) 資料１ページにありますとおり、あま市内には小学校１２校、中学校５

校及び不登校傾向にある児童生徒のための適応指導教室が1か所あります。また、小中学校の中に普通学級での学習に困難を抱え、特別支援学級に在籍していない児童生徒のための取り出し授業を行う通級指導教室が5学級あります。

(児童生徒数について)

資料2ページには、令和3年5月1日現在の市内小中学校の児童生徒数を図示したものをご確認いただけます。

この図では、市内地区ごとの人数の偏りを見て頂くことができるかと思えます。特に東部地区である甚目寺地区の人数が多く、南部地区である七宝地区の人数が少ないことが見て取れます。

何枚かめくっていただいて、A3の用紙をご覧ください。

あま市内小中学校の児童生徒数の令和3年度までの実績値と、住民基本台帳から抽出した令和9年度までの予想値です。

全国的な少子化の傾向もあり、あま市の児童生徒数も大きな流れとしては緩やかな減少傾向にあることが見て取れます。

一枚めくっていただいた最終ページに、

近隣市における児童生徒数と小中学校数の比較をご確認いただけます。

(学級数について)

資料3ページにお戻りください。

特別支援学級を除いた普通学級の令和3年度までの実績値と、住民基本台帳から抽出した児童生徒数に基づく令和9年度までの予想値です。

ここでご注意いただきたいのは、今まで小学校2年生までと中学校1年生までが35人学級であったものが、小学校において令和3年度から1年ずつ35人学級とする学年を引き上げることとなったことです。

35人学級では、35人までは1つのクラスであったものが、36人となった場合には半分ずつの2クラスとなります。なお、中学校は1年生のみ35人学級で、対象学年の引き上げは行われません。

35人学級の対象学年引き上げにより、児童生徒数は横ばい又はゆるやかな減少傾向にあるものが、クラス数では横ばい又は一部では上昇することが見て取れます。

さらに、甚目寺西小学校では今後の普通学級数を現在の空き教室でまかなうことができなくなるにより、校舎を増築する工事を現在行っていることを報告いたします。

(施設等について)

資料4ページをご覧ください。

市内小中学校の校舎等の施設をご確認いただけます。

資料5ページをご覧くださいと、市内小中学校の敷地で市の所有する土地だけではなく、私有地を借地している学校とその面積をご確認いただけます。

	<p>(他施策の利用について)</p> <p>その下から、資料7ページまでは 放課後子ども教室と児童クラブの学校併設のものと別な施設で併設又は 独自施設で行っているものをご確認いただけます。</p> <p>一枚めくっていただいて、7ページから8ページには、 市民等にスポーツ利用のため頻度と範囲はともかく学校施設のうち開放 しているものをご確認いただけます。</p> <p>あま市立小中学校の現状と予測については以上です。</p>
山田委員長	<p>あま市内の建物、児童生徒数、35人学級によって教室数が足らなくな る学校もあるということが報告されました。</p> <p>あま市内だけでも、人数の多い学校、少ない学校とある現状が分かって いただけたかと思えます。</p> <p>それでは、「議題(4)意見を聴取するテーマの全体概略説明について」 に入ります。事務局説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>今日の小中学校においては、様々な課題があります。</p> <p>これらの課題について、あま市の小中学校が目指すべきビジョンを示 すことにより、計画的かつ継続的に教育行政をすすめて行きたいと考えて います。様々な課題のうち、事務局では6つのテーマを設定しました。</p> <p>本日、この6つのテーマについてご説明いたします。</p> <p>また、本日ご提示した6つのテーマ以外に会議のそ上に挙げた方が良い というテーマがあれば、後ほどご意見を頂ければとも思えます。</p> <p>6つのテーマについては、担当からご説明いたします。</p>
書記	<p>1つ目のテーマについてご説明いたします。</p> <p>(小中学校のあり方①小規模校と大規模校)</p> <p>小中学校のあり方①小規模校と大規模校のA3一枚の資料をご覧ください。</p> <p>先ほど、「あま市小中学校の現状と予測について」をご覧いただいたとお り、全国的な少子化の流れの中、あま市においても、児童生徒数は全体と してはゆるやかな減少傾向にあります。</p> <p>現在の小中学校については、平成22年3月にあま市が合併により誕生 する以前の、高度経済成長期以降の昭和40年代から昭和50年代に建設、 設置されました。この時代は、その後いわゆる団塊ジュニア世代と言わ れる子供たちが生まれるころでもあり、児童生徒数が大きく増加傾向にあ った時代でもあります。</p> <p>児童生徒数が大きく増加傾向にある時代の小中学校のグランドデザイン のまま、今後の少子化による減少傾向の現在も、はたしてあま市として持 続可能な教育が行っていけるのかという問題が根底にあります。</p>

資料1 ページをご覧ください。

現在の各小学校区の児童数配置を見て頂くと、半分以上が東部地区にあり、大規模校が2校あります。

また、南部地区は全体の2割程度の児童がいますが、学校数は東部地区と同じ4校であることから、小規模校が2校あります。

資料2 ページをご覧ください。

この問題は、今始まった問題ではなく、合併直後から話し合わせ、検討が重ねられてきた問題でもあります。その中で話し合われていた手法としては、一つが学校の統廃合、二つ目が通学区域の再編です。

合併後10年余りの期間、二つ目の通学区域の再編について4. 過去の検討委員会と意見書等にあるように複数個所で話し合われてきましたが、全ての地域において実施には至っておりません。唯一、七宝小学校、美和東小学校、篠田小学校の6年生が中学校に進学する際に、住所による学校の他、七宝北中学校に入学することができる制度が開始されました。

ひとつお伝えしなければならない点として、大規模校だから、小規模校だから良くないというわけではないということです。

大規模校では大人数による多様な児童生徒による社会性を育むことができますし、大規模校であるため教職員数も多く配置され、多くの大人の目による様々な視点からの見守りが可能であったりと、良い特色もたくさんあります。

小規模校では少人数であるがゆえ、児童と教職員の距離を近くとることが可能となり、より個に応じたきめ細やかな指導が可能になるなど、良い特色もあります。

しかし、その一方、小規模校においては限られた児童のみによるコミュニティの硬直化ですとか、学校によっては2クラス設置が困難な場合は、6年間全く同じ顔ぶれで学校生活を過ごさなければならないなど、良い点も良くない点もあります。

資料3 ページ、4 ページをご覧ください。

あま市では「公共施設総合管理計画」、「公共施設再配置計画」など、いくつかの計画が既に策定済みです。

高度経済成長期以降に集中的に建設、配置された校舎等の老朽化の問題もあり、児童生徒が減少傾向にある少子化の現状を踏まえ、今後持続可能なあま市としての教育を考えたときに公共施設としての学校を見直してはどうかという内容となっています。

なお、行政が一方的に実施できる内容ではないことは当然のことで、すぐさまそのとおり実施するという性格のものではありません。あま市の持続可能な方向性として、どのように考えて行くのかということを検討しなければならないということです。

<p>書記</p>	<p>(小中学校のあり方②小中一貫校について)</p> <p>2つ目のテーマについてご説明いたします。</p> <p>小中学校のあり方②小中一貫校についてのA 3一枚の資料をご覧ください。</p> <p>資料1ページをご覧ください。</p> <p>平成27年の学校教育法の改正により、義務教育段階における学校の種類が、今まで小学校と中学校であったものに加えて、義務教育学校が選択可能となりました。</p> <p>義務教育学校は、従前の小学校6年間、中学校3年間で併せた9年制の小中一貫した教育を行う学校の種類となります。</p> <p>この小中一貫した教育を実施しようとしたとき、選択肢は2つあります。一つは、さきほどの義務教育学校を設置すること、もう一方は、併設型小学校、中学校とすることです。</p> <p>資料2ページをご覧ください。</p> <p>文部科学省が平成28年12月に出した「小中一貫した教育課程の編制・実施に関する手引き」の抜粋を載せています。</p> <p>小中一貫教育のメリットについて、いわゆる「中1ギャップ」の是正、学校現場の課題の多様化、複雑化への対応、それにとまなう学校に期待される役割の相対的増大への対応が挙げられています。</p> <p>資料3ページ、4ページをご覧ください。</p> <p>小中一貫教育の実施に際し、教育課程において様々な特例がもうけられ、従来の6-3制教育だけではなく、4-3-2制や5-4制など多様な選択肢を選ぶことが可能となります。</p> <p>義務教育学校を選択することで、従来の学校区を変更することなく、新たな学校種として設置することが可能となりますが、従来の小中学校の廃止を伴いますので、越えるべきハードルは高くあります。</p>
<p>書記</p>	<p>(小中学校のあり方③施設等の共有化・複合化について)</p> <p>3つ目のテーマについてご説明いたします。</p> <p>小中学校のあり方③施設等の共有化・複合化についてのA 3三枚の資料をご覧ください。</p> <p>資料1ページ、2ページをご覧ください。</p> <p>施設等の共有化とは、現在各学校に設置してあるプール、体育館、武道場などの施設について、一つの学校に一つの施設を設置するのではなく、一つの施設を複数の学校で共有する考え方です。</p> <p>近年、海部津島地域においても実施がすすめられてきているもので、津島市でもプールの共有化が図られていると聞いています。</p> <p>施設等の複合化とは、少子化の流れの中、余裕教室が生まれた場合に、その余裕教室を子育て支援サービスを提供する場所とするなど、学校の施</p>

	<p>設に複数の役割を持たせる考え方です。</p> <p>資料3ページをご覧ください。 現在のあま市小中学校に設置してある校舎及び付帯施設を一覧としてご確認いただけます。</p> <p>資料4ページをご覧ください。 なお、仮に共有化を図ることによって、不要となった学校用地が発生した場合、売却も検討に入ると考えられますが、その際は当該学校用地が借用によるものであることがあるので注意が必要です。 また、施設整備方針にしたがって備えておくべき施設があることにも注意が必要です。</p> <p>管理側面としての注意点は、先に述べたとおりですが、実際の運用面での注意点としては、例えばプールを共有化又は民間委託とした場合、今まで授業1コマで実施できていたプールの授業が、移動を含めて2コマ必要になることや、移動時の安全面、移動時に事故が起きた時の補償など、経費以外の考慮点もあることに注意が必要です。 また、民間のプールを必要時のみ借用し、当該プール施設の小型バスによる送迎をしたとしても、少なからぬ経費が必要となります。プールを持ち続けるときと経費比較をしたときに有利か否かという問題もあります。</p> <p>資料4ページから8ページをご覧ください。 施設の複合化に関して、既に行っている学校施設を子育て支援サービス又はスポーツ開放に利用しているものを一覧としてご確認いただけます。本取組を余裕教室の状況をみながら、一層進展していくことにより、余裕教室対策とすることが考えられます。</p>
<p>書記</p>	<p>(小中学校のあり方④これからの学校・学校と学校・学校と地域のあり方について)</p> <p>4つ目のテーマについてご説明いたします。 小中学校のあり方④これからの学校、学校と学校、学校と地域のあり方についてのA3四枚の資料をご覧ください。</p> <p>(学校と家庭と地域のあり方)</p> <p>資料1ページをご覧ください。 1つ目として、学校と家庭と地域のあり方についてです。 学校現場の課題の多様化、複雑化が一層進み、学校に期待される役割が相対的に増大してきていることについては、既にお話ししました。 これまでの体制による対応では学校だけでは立ちゆかないという現状があるなか、地域と学校が連携・協働して地域全体で子供たちの成長を支えるいわゆる「チーム学校」という形をすすめるため、開かれた学校づくりが既に進められています。</p>

資料2 ページから3 ページをご覧ください。

現在、あま市の小中学校全17校において、学校運営協議会を設置しています。学校運営協議会は、学校の運営及びその学校の支援のため、学区に住む地域の住民や、保護者が学校と一緒に協力をするための仕組みです。

資料4 ページから5 ページをご覧ください。

生涯学習課において、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域学校協働本部が既に設置されています。

これらの取組を一層推し進め、地域全体で子供たちの教育を担う仕組みづくりをいかにして実効性のあるものにしていくかが今後の課題です。

資料5 ページから6 ページをご覧ください。

特色ある学校づくりについてご説明します。

市内一斉横並びの学校作りではなく、小規模校では小規模校の、大規模校では大規模校の、また、それぞれの学校の地域や特性に合わせた特色ある学校づくりを進めるため、特色ある学校づくり推進事業を実施しています。本取組を一層推し進め、財政負担も考慮しつつ、より実効性のあるものにしていくには、どのようにしていけばよいかということが今後の課題です。

資料6 ページをご覧ください。

令和2年12月に学校間交流について、甚目寺東小学校及び正則小学校区で検討委員会を開催しました。

学校間交流については、あま市全体の方向性を示したうえで、希望がある場合には、関係する学校等での学校間交流の規模や方法等の具体的な計画を話し合うことが相応しく、地域づくりや生涯学習活動と連携しながら時間をかけて旧三町の垣根を取り払うような交流活動につなげていけるよう推進することが良いのではないかと報告を受けました。

(特別支援教育における学校のあり方)

資料7 ページから14 ページをご覧ください。

2つ目として、特別支援教育についてです。

特別支援教育及び不登校児童生徒等並びに医療的ケア児について、現在小中学校において実施されている取組についてご確認いただけたと思います。

幼保小の連携協議会や就学相談など、就学前の仕組みについては、現在さまざまな取組を行っています。また、教育相談センターや通級指導教室など在学中の取組についても行っています。

	<p>しかしながら、当該障害児者の目線で見たときの、出生から生活自立までライフサイクルを考えたとき、中学校卒業後の高校や就労の定着支援、不登校児童生徒の卒業後のニート、引きこもり化を防ぐ取組について、生活困窮者自立支援窓口や子ども若者支援窓口などの取組があるものの、スムーズな支援移行が出来ているかという点と難しい部分があります。</p> <p>出生から生活自立までを計画的かつ継続的に支援実施施策をリレーして情報と支援を行う仕組みができれば、より早期から支援を実施し、より効果的な支援が可能となるのではないかと考えます。</p> <p>資料14ページ、15ページをご覧ください。</p> <p>特別支援教育、不登校対策、いじめ対策を考えたとき、あま市では配置出来ていませんが、スクールソーシャルワーカーやスクールロイヤーを配置出来ていれば、より効果的な支援を行うことができます。</p>
書記	<p>(小中学校のあり方⑤ICT利活用について)</p> <p>5つ目のテーマについてご説明いたします。</p> <p>小中学校のあり方⑤ICT利活用についてのA3一枚の資料をご覧ください。</p> <p>資料1ページをご覧ください。</p> <p>現在、各小中学校で設置済みのICT機器等の構成模式図をご確認いただけることと思います。これは、一つの学校における構成図であり、これらの構成が17校分あるとお考え下さい。</p> <p>資料2ページをご覧ください。</p> <p>先ほどの模式図の内容を列挙したものです。</p> <p>GIGAスクール構想に基づく一人一台タブレット端末が配備されたいま、それらタブレット端末を使って授業を行うにあたり、いかにして活用していくのかが問われています。</p> <p>現在、あま市は、まずは普段の授業の中でのタブレット端末の活用について教職員の習熟及び研究を進めようという方針の下、インターネット経由でのオンライン授業や、タブレット端末の持ち帰りについては他市の後塵を拝している状況です。</p> <p>また、教職員の働き方改革に伴うICT機器を利活用した事務の省力化などの学校DXについても進んでいるとはいいいがたい状況があります。</p> <p>今後、校内のICT機器構成のグランドデザインをどのようにするのか、タブレット端末を児童生徒に持ち帰らせてどのような教育活動を行うのか、学校のDX化をどのように推進するかが課題です。</p>
書記	<p>(小中学校のあり方⑥働く場としての学校)</p> <p>6つ目のテーマについてご説明いたします。</p> <p>小中学校のあり方⑥働く場としての学校についてのA3二枚の資料をご覧</p>

	<p>ください。</p> <p>資料1 ページから7 ページをご覧ください。</p> <p>平成29年12月の「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」という中教審まとめ及び平成29年12月「学校における働き方改革に関する緊急対策」をうけ、学校のみによる教育ではなく、地域や保護者と協働する持続可能な教育が求められています。</p> <p>そのなか、基本的には学校以外が担うべき業務、学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務、教師の業務だが、負担軽減が可能な業務が示されました。</p> <p>単に就業時間の過多を計測するのみではなく、その仕事の手順や方法を地域との協働や、ICT機器等の利活用により変革していく試みが求められています。</p> <p>資料8 ページをご覧ください。</p> <p>愛知県教育委員会では、部活動参加生徒に適切な技術指導を受けさせるとともに、教員への支援、教員の負担軽減を図るため、平成30年度から公立中学校へも部活動指導員を紹介する事業を始めています。</p> <p>また、部活動指導ガイドラインが設けられ、平日に1日と土日のいずれか1日以上以上の休養日を設けることとされました。</p> <p>部活動について、地域のクラブチームへの移行は可能なのか、移行することについての是非、受け皿となるクラブチームをどのように育成していくのか等課題は多く残っています。</p> <p>これは、すぐさま変えていくものというよりは、将来に向けて今からどんなことができるのかという問題でもあります。</p> <p>以上です。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>事務局にて設定した6つのテーマについては、以上のとおりです。</p> <p>それぞれ単独で考えて行くというよりは、関連していくものと思っています。たくさん内容を一気にご説明したため、なかなかすぐに把握していただくことは難しいかと思いますが、説明とさせていただきます。</p>
<p>山田委員長</p>	<p>たくさんテーマについて、かなりたくさん資料の説明をしていただきました。最後に一言ずつ、本日初めて聞いた問題もあるかと思いますが、率直な感想をお聞きしますので、考えながら聞いていただけたらと思います。先ほどの説明は、導入に当たる部分でして、最初にしっかりと理解して頂かないと、先に進んでいけませんので、よろしくお願いします。</p> <p>確認します。6つのテーマがありました。</p> <p>1つ目が、小規模校と大規模校、2つ目が小中一貫校、3つ目が施設等の共有化・複合化、4つ目がこれからの学校・学校と学校・学校と地域のあ</p>

	<p>り方、5つ目がICT利活用、6つ目が働く場としての学校でした。</p> <p>それでは、議題（5）意見を聴取するテーマの追加の有無の照会についてに入ります。</p> <p>6つのテーマは、全て関連してくるわけですが、6つ以外に追加したほうが良いのではないかというテーマがあればお聞きしたいと思います。</p>
委員全員	なし
山田委員長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>6つだけでもたくさんありますね。</p>
山田委員長	<p>それでは、議題（6）質問・ご意見聴取に入ります。</p> <p>後から皆さんからご意見を頂きますが、まずは何かご意見又はご質問はありますか。</p>
小林副委員長	幅広いテーマが設定されています。この議論の順序は、1から6の順番に進めるものでしょうか。
学校教育課長	<p>この1から6の順番にとらわれることなく、並列と考えていただいて良いと思います。未だ優先順位が付けられていない状態です。</p> <p>このなかで、優先順位についてもご意見いただければ、有り難いかなと思います。</p>
小林副委員長	6つのテーマがそれぞれ絡み合っている部分もありますし、例えば、6の先生の働き方について話し合う内容によって、5のICTの利活用をどのようにするのかであったりと、順番が前後することによって、前提が変わってきてしまうこともあるかと思います。どの順番に議論をするのかは結構大切なことかなと思います。
学校教育課長	本委員会は、市当局を含め、様々なお立場から幅広く委員としてご参加いただいています。様々なお立場から、それぞれの優先順位があると思いますので、それぞれのご意見がいただければと思います。
山田委員長	本日の会を含めて、これからどのように進めていくのかということも事務局とも相談しながら委員会を進めていければと思います。委員がおっしゃるように、ほとんどが関連してきていますので、縛りを設けることは難しいと思います。
山田委員長	<p>それでは、他に何かご意見、ご質問はありますか。</p> <p>まずは、私から申し上げます。その後、順番にお聞きしますのでよろしくお願い致します。</p>
山田委員長	<p>義務教育学校について紹介していただきました。ご存じの方もご存じない方もいらっしゃると思いますが、尾張部では瀬戸市や飛島村にあります。飛島村は先行して進めてきていると思いますので、分かる範囲で飛島村がどんな状況なのか教えていただけたらと思います。特にどんなメリットがあるのかという点について。</p> <p>2つ目として、あま市内の小中学校でも小規模校であったり大規模校であったりしますが、小規模校がどんな状況からその様な状況に至っているのかを教えていただけたらと思います。</p>

	<p>3つ目ですが、学校運営協議会について、大事なのは地域と学校をつなぐコーディネーターであると思います。そのあたり、現状と、どのように機能しているものかということについて教えてください。</p> <p>この三点について教えていただけると、この後皆さんもご理解いただく参考となるのではないかと思います。分かる範囲で結構です。</p>
書記	<p>まず、小中一貫教育のメリットについてですが、従前の6-3制の教育にかかわらず、例えば4-3-2制など自由に組み換えが可能であるということです。また、例えば従前では3年生で学習していたものについて、前倒しをして学んだりするなど、順番を入れ替えるなどの教育課程の特例が設けられています。これらにより、小学校6年生から中学校1年生に進学するにあたって、科目が増えるなど、現状では大きな段差があるわけですが、その移行をスムーズに進めることによって、9年間を一貫して教育することができるというメリットがあります。</p> <p>飛島村の状況については、すぐさま一気に移行することは中々難しいとも聞いています。</p>
日比野次長	<p>飛島村の状況について聞いている範囲でご案内申し上げます。飛島村の小中一貫教育についてはしばらく経っていますが、義務教育学校となったのは、ここ数年のことであると把握しています。</p> <p>当初は、小学校と中学校にそれぞれ校長がいて、義務教育学校になって1人の校長となったとのことです。</p> <p>小学校5年生、6年生と中学校1年生を一つのセットとしているようで、小学校1年生から4年生、小学校5年生から中学校1年生、中学校2年生から3年生と三つのステージに分けて行っているとのことです。</p> <p>従来の小学校、中学校の種類では別々の施設で学ぶ子供たちが、一つの施設で学んでいますので、地元の中での幅広い年代での交流が可能となっていると聞いています。</p> <p>しかし、従来の小学校では6年生は最高学年として、学校をひっぱりいくリーダーとして、学校の看板としての自覚が子供たちに芽生え、またそのように振る舞うわけですが、義務教育学校では、さらに上の学年がいることによって、6年生が他の学校にみられるような最高学年としての自負やリーダーシップが生まれにくいという部分もあるようです。</p> <p>施設面ではとても充実した施設設備で教育が行われているうえ、オープン教室のような取り組みも行われていることもあり、多彩な教育活動が展開されているというのが、視察等で見聞きした感想です。</p>
山田委員長	<p>飛島村の取組については、まだ始まったばかりの取組ですので、成績への影響など効果測定がしっかりとされている訳ではないようです。施設はきれいです。</p>
教育長	<p>飛島村は、極めて小規模の小学校と同じく小規模の中学校が一緒になって、合わせて9年間でどのような教育を行っていくのかという課題から、義務教育学校が設置されました。</p>

	<p>あま市においては、義務教育学校の設置はしていないし、6-3制の学制の組み換えも行っていないが、幼保小中の情報連携の中からの12年間の一貫した教育を目指して取り組んできました。</p> <p>公共施設の再配置計画があるところだが、小規模校であっても学校の統廃合をすることというのは、地域の方々にとっても行政にとっても、とてもハードルの高いことであると言えます。学校を廃校とするということではなくて、新たな制度として3つの学校で新たな形の一つの学校を作るといような意識改革が必要なのではないかと考えます。</p> <p>仮に小中一貫校をつくるということになるのであれば、議会の同意も必要であるし、増築や改装も必要になります。しかし、長期的にみれば、小規模であろうと3校あるのと、規模の大きな1校と比べたときに、運営経費は違ってくると考えています。小中一貫校について、委員の皆さまにご議論いただき、ご意見をいただきたいですが、市民の皆様にもご理解をいただきたいところです。なお、小規模校対策として小中一貫校という選択肢があるということは、議会でも私からも市長からもご紹介をしたことがあります。</p>
山田委員長	<p>廃校ということになれば、地域からもいろんな意見が出てきます。“おらが学校”ではないですが、ご理解いただくのは、とても難しく、尾張地区でもなかなか進んでいない問題であります。</p> <p>小中一貫校だとか義務教育学校というのは、そういったところを解消しつつ、地域を大事にしながら解決する方法の一つであるとも言えるかもしれません。</p> <p>続いて、二つ目の質問についてお願いします。</p>
書記	<p>近隣地域における小規模校と大規模校についてですが、全国的な少子化の流れの中で、どの自治体も児童生徒数が減少傾向であるということは言えます。また、近隣市の愛西市、清須市、弥富市もそうですし、あま市もそうですが、いわゆる平成の大合併によって新たに誕生した市です。隣り合った町が合併する中で、どうしても人口の多いところ、少ないところと一緒にいるということがあるので、市になった後はどの市も地域による人口の偏りが発生してきます。対等合併であったとしても、もともとの町の人口の違いが地域の人口の違いとなっています。</p> <p>近隣市においても、その人口の偏りによる小規模校と大規模校が混在する問題について、話し合われてはいますが、具体的に解決策を実施したという話は聞いていません。</p> <p>どの地域についても話し合われているのは、小中学校のあり方①小規模校と大規模校の資料2ページにあるように、学校の統廃合又は通学区域の再編となっています。</p>
生涯学習課長	<p>三つ目の学校運営協議会のコーディネーターについては、お手元資料の小中学校のあり方④の3ページ中段に地域学校協働本部という部分に記載があります。</p> <p>具体的に説明させていただくと、あま市の地域学校協働本部のコーディネーターは3人います。この3人が地域ごとに割り振りを行っていき、</p>

	<p>お手元資料のあま市小中学校の現状と予測の1ページにあま市内の小中学校のうち、①七宝小学校から④秋竹小学校でひとり、⑤美和小学校から⑧美和東小学校まででひとり、残り⑨甚目寺小学校から⑫甚目寺西小学校まででひとりに担当していただいています。</p> <p>今、もう一人四人目のコーディネーターをお願いして、中学校の担当を兼務のみではないようにする計画を立てています。</p> <p>なお、このコーディネーターは、各学校から要望をお聞きして、登録している各ボランティアにお繋ぎしています。この登録しているボランティアは、現在220人を少し超えています。しかし、コロナ禍であることもあり、活動があまりできていない現状もあります。そういった点では、220人のボランティアの方々が全員フルに活用できていない状況があります。</p>
山田委員長	<p>地域の方に学校を知ってもらうためにも、コーディネーターは必要な役割になると思います。</p> <p>それでは、皆さんどうでしょうか。ご質問ございましたらお願いします。</p>
財政課長	<p>あま市財政課の古川です。</p> <p>私からは、4点の質問をさせていただきます。</p> <p>1つ目は、教員の働き方改革に関してです。あま市ではスクールサポーター配置事業として年間9,500万円程度の経費で補助員を配置しています。近隣市町と比較しても手厚い制度であると認識しています。教員の働き方改革にスクールサポーター配置事業は寄与しているのかどうかをお聞きしたいです。</p> <p>2つ目は、ICTの関係です。予算の査定では何度も議論させていただきました。教員のICT支援については、教員のICT活用能力を段階を踏まえながら進めて行こうと考えているとお聞きしています。しかし、タブレット端末はせいぜい5年から6年程度しか使用できないものであろうと想像するところです。おそらく、その後には更新が必要となると思われます。タブレット端末の導入には約7億円程度かかりました。そうすると、5年から6年経過したところで再度約7億円の予算を必要とするとなると、相当な財政負担が必要となります。そういった場合、タブレット端末を使用したICT利活用の効果がどの程度あるのかが問われるのが、5年後6年後にやってきます。その際、タブレット端末を使用した、いわゆるICTを活用した授業について、ぜひともスピード感をもって進めていく必要があるのではないかと考えています。グランドデザインについて、しっかりと考えて行く必要があると考えます。</p> <p>3つ目として、学校の統廃合についてです。七宝地区の秋竹小学区については、近くに都市計画による区画整理事業が出来る前までは人口が減少傾向にあったわけですが、区画整理事業をしたことにより、人口が増えているのかと想像しています。街の賑わいも、そのあたりは出てきているのかと思います。七宝地区の特に秋竹小地区について、最初は規模を縮小する計画であったと思いますが、時代を経ることにより変わってきているのではないかと思います。都市計画マスタープランが今年度末に完成す</p>

	<p>る予定です。この都市計画マスタープランは、街の10年後のヴィジョンを描くものです。例えば、市街化区域を見直しましょうであるとか、この地域は工場等企業誘致をして街を活性化していきましょうであるとかです。そういった市の大きなヴィジョンを描く計画が、今年度末にできます。そこでは、市長は9万人の都市を目指していきましょうと語っています。市長は、人口は衰退していくのではなく、人口を増やしていきましょうというような計画を描いていますので、都市計画マスタープランで、今後どの地域にどの程度人口が流入してくるのかを考慮する必要があるのではないかと考えます。その計画と、再配置計画とのマッチングを再度考えて行く必要があるのではないかと思います。このあたり、いかがでしょうか。</p> <p>4つ目として、施設の共有化についてです。財政課としては、ぜひ進めていただきたいと思います。平成29年度から令和3年度の5年間だけみても、小中学校の経費は、予算でみると48.9億円ついています。また、給食センターが令和元年に改修しておりますが、こちらは32億円かかっています。これらを合計すると、この5年間での学校関係経費として80.9億円ついています。これは相当多いと言えます。施設の老朽化対策は、積極的に行っていくべきですし、今後持続可能な小中学校、教育行政を担っていくためには、老朽化対策は不可欠であると考えます。施設の長寿命化計画を進めていく必要があると思います。そう考えたときに、学校施設として今ある全ての施設を使っていくものかどうかという議論をしていただく必要があるのかと思います。学校には、プールなど他にも様々な施設があると思いますが、本当に必要な施設は何かということを見定めて、持続可能な教育に必要な学校施設の選択をしていただきたいと思います。施設を使用していくといこうとになれば、そこには予算が必ず必要となります。ぜひとも共有化を進めて、財源をねん出するという考え方が必要ではないかと思います。</p>
山田委員長	<p>質問が四点ありました。事務局お願いします。</p>
日比野次長	<p>1つ目として、スクールサポーターが教員の働き方改革に寄与しているかという点です。本市は、たくさんの予算をスクールサポーターに割いていただいていると認識しています。他市町と比較しても手厚いものであると理解し、感謝しているところです。</p> <p>心や体に様々な障害等を持って支援を必要とする子供たちが、インクルーシブ教育という形で特別支援学級だけでなく、普通学級のなかでもたくさんいます。あるいは、特別支援学級の児童生徒も教科によっては、学習活動に応じて交流学級として、普通学級のなかで集団と一緒に授業を受けることがあり、支援を必要とします。それらの支援をスクールサポーターの方々に担っていただいています。</p> <p>スクールサポーターの方々がいることで、教員の負担の軽減に確実につながっていると思います。</p> <p>他にも、ネイティブの発音ができるALTの先生の配置によって、子供たちがネイティブの発音による英語の学習ができるようになったというこ</p>

	<p>とであったり、図書支援員の方が配置されたことにより、教員のみでは行き届かなかった図書室の管理がなされ、図書室の利用が格段にしやすくなっていることであったり、外国人の児童生徒への初期の日本語指導を語学支援員にさせていただいたりしています。これらスクールサポーターの支援がなければ、教員だけではとても学校運営が立ちゆかないと言えます。</p> <p>学校に期待される役割が多様化しているいま、スクールサポーターの方々の支援を受けてなお、現場の先生方は多忙化及び要求される機能の多様化が進んでいます。手厚く配置していただいているものの、現場の先生方の声としては、もっと多くのスクールサポーターの支援を欲しているというのが実状です。</p> <p>特に特別支援関係では、限られたスクールサポーターの人数及び時間のなかで優先順位を付けて支援をしているところであり、支援を必要とする児童生徒は現在支援をすることができている人数以上にいます。</p> <p>教員の働き方改革には、大きく寄与していただいていると言えます。</p>
書記	<p>2つ目としてICTの関係です。昨年度と今年度にわたって、学校の先生方が集まり、課題検討委員会を設けました。課題検討委員会では、どのように学校の中でICT機器を活用した授業を行っていくのかということ話し合いました。例えば、パソコン教室のあり方ですとか、実際に各学校で取り組んでみた授業の方法論の共有であるとかです。</p> <p>そういった知識を共有しながら、教員のタブレット端末を利用した授業について検討しているのですが、今まで国内で児童生徒全員がタブレット機器をもって授業を受けるということが公立学校ではなかったため、そういったノウハウが未だ蓄積されていません。どうしても、全国の学校で手探りのなかでタブレット端末を利用しています。</p> <p>来年度についても、引き続き課題検討委員会を開催し、授業におけるICT利活用を話し合っていく予定です。</p>
日比野次長	<p>教科書会社の方や大学の先生方と話をしている中でも、更新の問題が話題にあがります。機器等は耐用年数があって何年か経過した後は買い換えなければならないということがあります。しかし、更新費用約7億円を国や県からの補助がないなか実施することは困難であると考えられます。将来的には、タブレット端末は児童生徒の利用する文房具として、ランドセルや筆箱、鉛筆と同じように世の中全体が家庭への負担をさせていただく方向になるのではないかとされています。</p> <p>しかし、児童生徒一人一人が異なった機種を用意すると、授業の中で利用することが難しいので、同じ機種を用意するにあたり、修学旅行や宿泊行事の積み立てと同じように子供たちがある程度、ICT機器の購入費用を積み立てて自己負担、受益者負担を求めていく方向となるのではないかと考えています。</p> <p>ある私立学校では、月々三千円ずつ積み立てて5年間ほどかけて学校でセキュリティも確保した学校仕様のノートパソコンを購入して入れ替えるということをしていると聞きます。</p> <p>そういったことも必要になってくるのかなと、私は個人的には思ってい</p>

	ます。
教育長	<p>国は完全に五年後には個人負担になることを念頭に発言しています。</p> <p>当然、市としてどのような補助をしていくのかを考えていかななくてはならないと思います。国からは具体的な話は出てきていないです。当然5年、6年たてば買い替えなくてはならなくなります。年度ごとに6年生が卒業して行けば、新1年生が入ってくるわけですが、お金は発生してきます。</p> <p>まだまだ課題はたくさんありますが、まずは、先生方の力量アップを現在の状況ではしていかななくてはならないと考えています。</p> <p>本当にすごい投資をしていただいています。先生方には自分自身の力量アップをしていただいて、子供たちにタブレット端末を使って、どんな力をつけさせるのかということを確認にしていかななくてはならないと思います。</p> <p>課題検討委員会でも、教員の力量について段階的なタブレット活用のイメージとしてステージ1からステージ4というような形で、段階的にステップアップしていくことを検討していただいています。</p> <p>課題検討委員会は、継続的にあと2年くらいは続けていただく必要があると考えています。</p> <p>教育委員会としては、リーダーシップを発揮して教員の指導力アップを図っていきます。</p>
学校教育課長	<p>人口動向をどのように検討していくかについてお答えします。</p> <p>甚目寺地区と七宝地区では人口の偏りが大きくあります。七宝地区と美和地区を足した数で甚目寺地区と同じくらいです。七宝地区の小学校4校を合わせて甚目寺地区の大きな学校よりある程度大きい程度ともいえるくらいの偏りが見られます。</p> <p>この人口の偏りは、市街化調整区域の分布が大きく関係していると考えています。市街化調整区域では新しい住民が家を建てて入ってくるのができないため、市街化調整区域が多く分布する地域の人口が増えにくい件について、学校教育課としてもなんとかならないかと思っています。</p> <p>市街化調整区域が外れて人口が増えてくれば、児童生徒数も増え、小規模校の対策にもなります。</p> <p>特に市内では、秋竹小学区、宝小学区が現在小規模校で人口が増えにくい地域となっていて、秋竹小学校と宝小学校は、現在1学年1クラスの状況が続いています。</p> <p>もともと、秋竹小学校も宝小学校も500人規模の学校でした。</p> <p>人口の動向は、注視しなければならないと考えています。</p> <p>しかし、学校教育課は市街化調整区域がどうなるのかということは、結果を待つしかない問題であることから、意見を言いづらい問題でもあります。都市計画マスタープランは注視する必要があると考えます。</p>
教育長	<p>市役所の新庁舎が出来てくれば、七宝北中学校区は市の中心部になってくるとおられます。都市計画マスタープランを念頭に入れながら、学校のこれからのあり方について、制度をうまくつかって考えて行ければと思</p>

	<p>ます。</p> <p>制度の複合化については、とにかくやっていかなくてはならないと考えていますが、その方法が非常に難しい。35人学級が進んでいったとき、学校の中で施設の複合化を進めて行けるのかという不安もあります。</p> <p>甚目寺西小学校のように余裕教室が生まれるのと逆に教室数が足りなくなって校舎の増築をしなくてはならないところもあります。何年か過ぎてピークを越えれば減少に転じる見込みでもありますが、まだ学区には田も多く残っており、それらの田が売られている状況を考えると、さらに増えるのではないかと心配もしています。</p> <p>困難さはあるとしても施設の複合化は進めなくてはならない問題であると考えています。例えば、生涯学習であるとかスポーツ施設であるとか、学童などの子育て支援施策、放課後子ども教室などが複合化の候補として挙げられると思います。</p>
書記	<p>共有化について、現状を鑑みるに一番導入しやすそうなものは、プールがあたるのではないかと思います。</p> <p>しかし、残念ながら、あま市には市民プールがありませんので、民間のプールが近くにある学校で、送迎がしてもらえる場合が検討の候補としてあげられるのかなと思います。</p> <p>ただし、正直に申し上げると、とても高い。民間のプール施設から、かつて提案を受けたこともあるのですが、そのままプールを持ち続けるのと大きな差はないなという感触を得ています。それでは、武道場ではどうか、体育館ではどうかと考えたとき、最低限屋内運動場は学校教育に必要なのではないかとあるとか、いろいろあって、共有化は進みにくいのかなと考えています。</p> <p>現場の先生からすると、今でも、やれ金融教育だ、何とか教育だと様々な教育内容のニーズは多々あるのに、そもそもの授業時数が少なく、そのうえでプールの授業に移動を含めて2コマとられるのは大変厳しいという声も聞きます。中々進みにくい原因の一つとなっているのかなと思います。</p>
山田委員長	<p>教員の数も足りなくて、学校に求められる機能の多様化もありますが、先に話題に出た一貫校がその解決策の一つにもなるのかなと思えますね。</p>
山田委員長	<p>本委員会も開始後1時間半程度経過していますので、この際5分程度の休憩を設け、休憩終了後に各委員から意見を伺おうと思いますが、いかがですか。</p>
委員全員	<p>異議なし。</p>
	<p>暫時休憩</p>
山田委員長	<p>再開いたします。</p>
山田委員長	<p>それでは順番に一言ずつ感想含めて、質問でも結構ですのでご意見いただければと思います。副委員長の小林さんからお願いします。</p>
小林副委員長	<p>たいへん幅広い問題があると思うところです。先ほど議論の順番のことを話させていただきましたが、古川委員の質問からも感じましたが、リアルな現実やリアルな数字に向き合いながら、大きな公教育としての問題も</p>

	<p>あるでしょうし、あま市ならではの問題もあると思います。そういったことを議論しつつ、どういう教育環境を作っていかなくてならないんだろうかということについて、情報を共有しながら議論することが必要であると思います。</p> <p>私は市民枠で座らせていただいていますので、それぞれのエキスパートの方々の意見を聞きながら、市民としての意見を言わせていただければと思います。</p> <p>ICTの件でもありますし、これからの学校の件でもあるのですが、学校の先生にあれも教えてね、これも教えてねと増えていっているのだなという印象を受けておりました、そんな中でボランティアの方との連携もさることながら、専門性を学校の中に外からいかにして入れていくのかということがすごく大事なのだなと感じました。</p> <p>ICTについても、学校だけでなく一般社会でもここ2年くらいでオンラインで人と何かコミュニケーションをとるという機会が増えてきています。対面だからよくて、オンラインだからダメとかではなく、対面には対面の、オンラインにはオンラインのそれぞれメリットだとかコミュニケーションのやり方や作法があると思います。</p> <p>そういうのは、学校の現場だけでなく、例えばファシリテーションを専門とされている方だとか、ワークショップをしたりしている方だとかも持っていると思います。学校の中の話だけでなく、視野を広げて、様々な分野での知見も取り入れていった方が良いのではないかと思います。</p>
山田委員長	<p>続いて、溝口委員をお願いします。</p>
溝口委員	<p>私はかつて適正規模の関係で関わったことがありました。</p> <p>その時に私が思ったのが、三つの町が合併して市になったのですが、それぞれの地域の方の思いというのは、とても強いということです。</p> <p>例えば、かつての時に聞いた意見として、美和地区の子がなぜ七宝地区に行かなくてはならないんだというものが、ものすごくありました。</p> <p>地域に対する思いがものすごくある中で、一つの市となる意識を皆さんに持っていただけるような工夫が何かできないかと思います。大変難しいとは思いますが。</p> <p>私自身が住んでいる地域でも、先日地域のイベントを行ったときに隣の地区に住む子がやってきたときに、なぜ他の地域の子も一緒にやってきてクリスマス会をやるのかという意見が出た。そういう考え方を持っている方もいる。私は一緒にやればいいんじゃないのかと思うのですが。そういう地域の考え方を打破できないものかなと、強く思います。</p> <p>教育委員会で作っている教育立市プランについて、現在改訂中とお聞きしますが、そういったものも我々は参考として、学校のあり方について考えて行ければ良いと思います。</p>
教育長	<p>教育立市プランについては、ちょうど今、改訂に係るパブリックコメントを募集しているところです。</p>
山田委員長	<p>地域の思いというのは、難しいところかと思えます。</p>

	<p>大事にしながら、進めて行かなくてはならないとも思います。 続いて加藤委員お願いします。</p>
加藤委員	<p>私は、宝小学校の校長です。現在、宝小学校はあま市の中で一番小さな学校です。開校してしばらくたった時期は、900人を超えるような大規模校で、宝小学校から秋竹小学校が分離独立した経緯もあります。</p> <p>秋竹小学区は少し人口が増えているようですが、宝小学区は先ほどのグラフを見て頂いても分かるように、どんどん児童数が減少していく見込みです。あま市役所新庁舎が建てられることにより、あのあたりの住宅がどのように変わっていくのかという展望や、小中一貫校の是非について、通学距離はどうなるのかといったことも考えて行かなければならないと思います。今は私がいる宝小学校の話しかしていませんが、市内全ての学校の子供たちが良い教育を受けられるような話し合いができればと思います。</p>
山田委員長	<p>安江委員お願いします。</p>
安江委員	<p>甚目寺南中学校校長の安江です。</p> <p>最初、小中学校あり方検討委員会の委員を依頼された時は、すごく難しい会かな、壮大な会なのかなと思ったところですが、今いろいろ説明を受けたり、皆様のご意見を伺っていると、とても大事な意義のある会の一員として参加させていただけるのは、幸せであると感じました。</p> <p>あま市はスクールサポーターが充実していますし、ICTの導入も早かったと思います。ICTの力量向上の教員研修も、他の市町よりも充実した形でできていて、本校でもそのおかげでICT機器をどんどん使っている状況があります。現場の教育に対して一生懸命取り組んでいただいて、大変ありがたいと思っています。</p> <p>さしせまった問題として、部活動が今後どのように展開していくのかという問題があります。先ほど、部活動とは直接関係ないかもしれませんが、登録ボランティア220人という話がありました。そういう形で、しっかり進んでいきそうだなという感触を得ています。</p> <p>校長会にも、この6つのテーマについて提示しながら、様々な意見を聴取しながら次の会にですとか、今後の会に出していけたらと思います。</p> <p>聞くとところによると、このあり方検討委員会というのは、どの市町でもやっていることではないと言うことですので、そういう意味でも、素晴らしい会に参加させていただいたと思うところです。</p> <p>今後ともよろしく願いいたします。</p>
山田委員長	<p>中学校の部活の問題は大きな問題ですね。 続いて林委員お願いします。</p>
林委員	<p>中川幼稚園の理事長の林です。</p> <p>話がずいぶん壮大で、どのようにお話しするか、とても迷うところなのですが、私はこの会議でも人口が減少していると話題に出ている七宝地区の出身です。</p> <p>私は、小学校中学校は、七宝小と七宝中を卒業しました。 高校卒業後はずっと東京にいて、東京で仕事をしていまして、2000</p>

	<p>年にこちらに戻ってきました。</p> <p>私が小学生、中学生のころは、宝小もとても児童数が多かったのですが、20年後あま市に戻ってくる際、七宝町も発展しているだろうと思って戻ってきました。そのようにイメージして戻ってきたところ、あそこにあったお店はない、あのスーパーもないという状況でした。市民プールもない、七宝地区にあっては図書館もない、公園もないと、住みたいと思わせる理由がないのです。同級生は、もう全員地元にはいません。まことに申し訳ないですが、住む理由がないのです。私もその現状を見て、名古屋市に転居し家も買って離れています。あま市の歯医者さんお医者さんも多くが名古屋市の東の方に住んであま市に通っていると聞きます。あま市に住んでいないんです。</p> <p>私は、あま市に住むところとして選ばれる理由として、教育がその理由となればよいと思います。たしかに議会など越えるべきハードルは高く、簡単な話ではないとは思いますが、小中一貫教育というのは、私からすると新しさの可能性を感じました。</p> <p>先日、金融機関の方と話をした際に出た話ですが、名古屋支店に転勤してきたときに、こっちのエリアには誰も住まないんです。スーモなどの検索サービスで住宅を検索するときに条件としてあま市がひっかかるようなものに教育がなければよいと思います。例えば、あま市は教育的に魅力があるようなところであるとかです。例えば、インフラで鉄道を引っ張ってくるというのは今の時代不可能です。しかし、教育であれば、人口が少ない地区の話があったり、人口の多い地区の話があったりしましたが、人口の少ない地域でも可能な話なのではないかと思いました。小中一貫教育については、詳しくないので感想という側面が強いかもかもしれませんが、新しさの可能性を感じました。あま市もちょっといいかもね、と思ってもらえるようなようになればよいと思います。</p> <p>働き盛りで、一番税金を落としてもらえる年代に選んでもらえるようなあま市になればよいと思います。甚目寺と七宝では温度差があるのかもしれませんが、七宝出身の私からすると、そういう人たちが住みたいと思えるあま市になっていないと感じます。教育が起爆剤となれば、魅力となればよいと思います。</p>
山田委員長	<p>実感のこもった、とても分かりやすいご意見でした。</p> <p>続いて佐藤委員をお願いします。</p>
佐藤委員	<p>今日の説明と議論をお聞きして、私が教育委員会在職中にも教育委員会でも熟考されてきた問題も多かったと思います。ICTについては、実際にタブレット導入までのところは見させてもらっていました。子供たちがどのような状況で使用し、学習面でどのような効果があったのかということも興味深く見させていただいています。</p> <p>人口減少の件については、あま市のみならず全国的に抱えている問題かと思いますが、私自身も近隣市町の状況について自分でも調べてみて次回以降の会にのぞみたいと思います。</p>

山田委員	<p>他市等の状況を見聞きして得た情報も、ぜひ会でご意見いただければと思います。</p> <p>続いて古川委員お願いします。</p>
古川委員	<p>先ほど、いろいろ質問させていただきました。</p> <p>財政課長という立場から、いろいろ質問させていただきました。今後とも財政面から見てどうなのかという立場でご意見させていただこうと思います。もちろん夢を否定するつもりはありませんし、夢を描いてそれに向かってやっていく必要があるとも思います。私は財政課長の立場として、お金の面であるいは、法律等の面でご意見が出来ればと思います。</p>
山田委員	<p>お金がいくらでもあれば良いのですが、そうではないので、効果的に使うということが必要だと思います。</p> <p>続いて早川委員お願いします。</p>
早川委員	<p>企画政策課長の早川です。</p> <p>説明の中にもありました、公共施設等総合管理計画であま市における公共施設が老朽化が進んでいるので、今後どのようにしていくのかという計画を策定させていただいています。</p> <p>計画の中に記載のある内容ですが、あま市の全公共施設の45%が学校施設です。この学校施設を含めた公共施設の25%を削減しようというものが、公共施設等総合管理計画になります。</p> <p>そのなかでテーマとして挙げられている施設の共有化、複合化を始め、校区の見直しや統合、配置・規模の適正化の問題も記載されています。</p> <p>教育長もおっしゃっていましたが、計画を策定する時にも、施設の廃止という表現ではなかなかご理解を得にくいというご意見が出ていました。面積上、施設の統合という表現となっていますが、併せてあらゆる検討を行いますとも記載があります。</p> <p>本委員会においても、小中一貫校、共有化や複合化についてもご議論いただいて、進めて行けるようお願いできればと思いますが、計画ではどのようなになっているのか等の意見は申し上げることができると思います。</p> <p>プールの共有化について、先ほど学校教育課から金額的に大きな差が見込めなかったという話もあったので、次回以降に金額的なところも提示いただけると良いかなと思います。</p>
山田委員長	<p>続いて恒川委員お願いします。</p>
恒川委員	<p>子育て支援課長の恒川です。</p> <p>私からは、三点ほど感想とお願いを申し上げます。</p> <p>先ほど、林理事長さんが七宝小七宝中卒業とおっしゃっていましたが、私個人は宝小、七宝北中卒業です。私が宝小に通っていた時代は、いわゆるマンモス校でした。運動場にプレハブ校舎が建っていて、在学途中に秋竹小学校が出来て、秋竹小学校に通学するようになる子たちに皆できようならと手を振った記憶があります。その当時のことを思うと、大変寂しい状況にあると思います。</p> <p>1つ目として、先ほど、財政課長からも指摘がありましたが、秋竹小学</p>

	<p>区で区画整理事業が行われて、若干若い世代の流入があり、若干人口が増えつつあると理解しています。保育園においても、今後利用者が増えるだろうと注視しています。また、先ほど教育長からも指摘がありましたが、令和5年5月にあま市役所新庁舎が建設され、大字沖之島の地区にも若干住宅が建つ地域が増えるという聞いています。保育園としても、この地域についても、今後利用者が増える可能性があると考えています。</p> <p>2つ目として、小中一貫教育について具体的に計画が動き出すことになった場合には、子育て支援課としても小学校で児童クラブや子ども教室などで学校施設を利用させていただいていますので、施設面でも考慮に入れてご検討いただければと思います。</p> <p>3つ目として、これは子育て支援課長としてではなく、私はクラブチームの役員をしていますので、その関係からの意見です。クラブチームの役員と言っても、そのクラブチームはあま市内ではなくて、一宮市であるとかその近辺で活動しているクラブチームです。教員の働き方改革に関連して、特に小規模校においては部活動の種類が限られて、子供たちはなかなか自分が望む部活動に入ることができなかつたり、やりたい部活を長く続けられなかつたりという状況があります。一宮市においては、新しいクラブチームがいくつか出来上がってきています。新しくできるクラブチームは、女子専用のクラブチームなど、様々です。この部活動とクラブチームの問題については、ある意味待ったなしの差し迫った状況にあるものと理解しています。私が役員を務めるクラブチームも広域財団法人の認可を受けて実施していて、国や県の指導を受けて活動をしています。学校で部活動を実施するに当たって、人的を含めて制限がある状況があるのであれば、クラブチームなどに任せることも選択肢としても良いのかなと思います。</p>
山田委員長	<p>続いて岩井委員をお願いします。</p>
岩井委員	<p>保育園代表として参加させていただいています、子育て支援課の保育士長の岩井です。</p> <p>毎年、保育園からたくさんの子供たちが小学校へ入学しています。先ほど、中1ギャップというお話がありましたが、小学校入学に際しても、小1プロブレムと言われる問題があります。あま市においては、この小1プロブレムに対処するため、毎年夏ごろに幼保小連絡協議会を開催し、子供たちがスムーズに小学校に入学できるように幼稚園保育園と小学校が情報連携をとるための会を行っています。この取り組みは、子供たちがスムーズに小学校へ入学するための助けになっており、とても役立っていると考えています。</p> <p>本当にたくさん問題があると思うのですが、保育園もそうですが、小中学校は子供たちが主役であるということをお忘れにはいけないと思います。小中学校は、子供たちが勉強しやすい場であって欲しいと思います。また、子供たちが生き生きと毎日生活できるような小中学校のあり方について、今後検討が出来ると良いなと思います。</p>
山田委員長	<p>最後に私の方からお願いを含めてお話をしたいと思います。</p>

今後、この委員会で話していく学校のあり方についてです。教育長からの最初のあいさつで今後の10年を見通した議論をお願いしたいとお話がありました。その場その場の対処的ではなくて、先を見通して考えることは非常に意味のあることで、今変わりつつある事柄も吸収しながら、どうしていったらいいのだろうと話し合うことはとても大事であると考えます。

例えば、35人学級の話があったり、小学校に教科担任制が導入されることであったり、GIGAスクールとICTについてであったりと、どうしていったらいいのだろうかとか総合的に考えることは、非常に意味のある事だなど、本日皆さんのご意見を聞かせていただきました。

そのなかで、忘れてはいけないのは、子供たち主体であるということだと思います。子供たちがより良く育つために考えて行かなくてはならないと思います。子供の教育が縮小されたり、不利になるような状況にならないようにするというのを念頭に置かなくてはならないと考えます。

一貫校とか義務教育学校について、私も何校か開始して2年ほど経つ学校に研究で入って見てきました。非常に良い形で進んでいました。何が良いかという、地域がバックアップしてくれている。複数の学校が一つになったんですが、新しい学校を作っていくというポジティブで前向きな雰囲気がありました。毎日のように地域の方がいらっしゃって、バックアップされていた。そういう環境が生まれてくるという状況は、とても大きいと思います。どこかを潰すとか、統合するだとかよりも、新しいものを作っていくというイメージがとても大事であると思います。小中一貫校であるとか義務教育学校であれば、教科担任制も上手く運営することができます。教員の数も確保できます。教員の仕事も分担しやすいので、メリットは大きいと思います。そういったことも、この委員会で話をして行ければと思います。

ICTについてですが、文房具の様に使いなさいと文部科学省も言っています。そうすると、子供たちは朝登校したら、当たり前前にスイッチを入れて使い始めるようになる。授業だけで使うのではなく、私はステップ0と言っていますが、学校生活の中でICTを使う。このステップ0が大切で、生活の場面でICTを使っていくと、子供たちは当たり前前に使えるようになっていって、先生たちも使えるようになっていく。例えば、体温を測ってきて先生に報告するにあたって、タブレットを使って報告する。あるいは、一日の感想をタブレットを使って記録する。それから、連絡帳もタブレットで全部まかなう。タブレットをいろいろ使っていく方策はたくさんあるので、そこから慣れて行けば使用頻度が上がって、授業の中でも自然と使えるようになってくるであろうと思われる。

また、地域との関連でも、学校でやっていることをオンラインで配信するであるとか、子供たちの作品発表をオンラインで紹介するであるとか、いろんな活用方法があります。これらは、地域との繋がりに役立つと思います。関連してくる内容として、そういった議論もできると良いかなと思っています。

山田委員長	<p>本日は、これをスタートとして、一つずつテーマにそって話ができいくと良いかなと思います。</p> <p>以上で、本日の議題を全て終了しました。</p> <p>事務局に進行をお返しします。</p>
学校教育課長	<p>委員の皆さま、ご意見をありがとうございました。</p> <p>続いてその他1つ目として次回の日程について、ご説明いたします。</p> <p>既に皆様にお知らせはさせていただいているところではございますが、次回 第2回あま市小中学校あり方検討委員会について、</p> <p>令和4年3月22日（火）9時30分から</p> <p>会場は、本日と同じ建物の2階会議室にて開催いたします。</p> <p>また、第3回を6月、第4回を8月に予定しております。日程調整のための照会をお送りいたしますので、よろしくお願いいたします。</p>
学校教育課長	<p>続きまして、その他2つ目として、アンケート調査についてご説明いたします。</p>
書記	<p>アンケートについて、ご説明しました6つのテーマについて、本日小林副委員長からもお話があったように優先順位を問うものとしております。</p> <p>また、本日は一気に駆け足でご説明しましたので、説明を受けた上で、それぞれ帰庁後出てくるご意見をおうかがいするため、アンケート調査を実施いたします。つきましては、アンケートをお送りしますので、ご回答をよろしくお願い致します。</p> <p>日程調整用紙については、本日ご用意させていただいておりますので、この後お配りいたします。3月11日までにお出しいただくような内容となっておりますので、ご協力をお願いします。</p> <p>いただいたアンケートの集計結果報告を第2回に行う予定です。</p>
学校教育課長	<p>本日の内容は、全て終了いたしました。</p> <p>本日はお疲れさまでした。</p> <p>今後ともよろしくお願いいたします。</p>
教育長	<p>どうも、ありがとうございました。</p> <p>また、いろんなご意見がありましたら、担当の方へ言っていただければ、修正しながらやっていきたいと思っております。</p> <p>今後、事前に資料等を委員の皆さまにお配りして、よりよいご意見をいただけるよう進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。</p> <p style="text-align: right;">【閉会時刻 午前11時30分】</p>